

# 生ごみリサイクルを大阪府内の各市町村で積極的に実現するための

## 学習会

NPO 法人として活動してきた中、いま転機の方角を模索する。

1. 食循環の総体(生ごみリサイクル、堆肥化、堆肥供給による有機農業生産、生産物販売と利用推進)を対象とすることを当分止める。
2. 大阪府内の生ごみリサイクルの推進に特化する。その際、各地域がリサイクル製品の行く先を必要とする。それと関連して有機農家の発掘を進めることができればよい
3. 大阪府内の生ごみリサイクルの可能性は
  - ① 豊中方式の拡大 どこまで拡大できるか だが、市民・行政が動いているから、発展の可能性はある
  - ② 箕面では、可能な方式を積極的に提案してゆく必要がある
  - ③ 枚方は、ひらかた市民環境ネットの動きが前に進むかどうか 市長の退任もあり得るので…
  - ④ 高槻市は市民環境の城北商店街での取り組みが今後どう発展してゆくか
  - ⑤ 羽曳野市は学校給食センターの残飯・調理屑がもらえるかどうか 市民への働きかけが進むか
  - ⑥ 大阪府北部中央卸売市場の生ごみ、他の卸売市場、大阪市関係卸売市場、地域卸売市場の生ごみリサイクル
  - ⑦ 大誠産業、辰巳環境、コスモの動き
  - ⑧ スーパー、コンビニ、百貨店の食品残渣
  - ⑨ 各地域の学校給食残渣・調理屑
  - ⑩ 公共施設の食堂(市役所など)
  - ⑪ 民間大企業、特に環境 ISO に関連して企業食堂の生ごみ処理

### 4. 学習会計画

市民の意識調査 NPO 法人シティズンホームライフ協会の会員市民の意識調査

2007年5月31日

業務委託契約等を随意契約から指名競争入札に変更したことによる

財政上の改善効果 19年度 64百万円(含、相場変動分)

<堺市環境事業部のケース 18年度比較>

### 1. ペットボトルの収集運搬業務関連の改善効果

#### 1) 収集運搬業務委託費単価低下によるメリット

A区域: (@1097円 - @1785円) × (17×51 + 30×91 + 13×130)  
≒ -3637千円

B区域: (@1254円 - @1785円) × (14×51 + 35×91 + 15×130)  
≒ -3106千円

A、B両区域で6743千円の業務委託費低下

#### 2) 収集されたペットボトルの売払い収入(18年度はなし)

@36.75円/kg × 362t (18年度引渡し数量) ≒ 13304千円

#### 1) 2) の合計 20047千円

### 2. 空き缶、空き瓶の売払い単価アップによる改善効果

(18、19年度の売払い単価差に18年度の実績数量をかけて算出。なお、単価アップは競争入札に変更したことのみならず、資源化可能物の市場価格上昇分も含んでいる。)

#### 1) アルミ缶

(@189000円/t - @60000円/t) × 110t ≒ 14190千円

#### 2) スチール缶

(@31500円/t - @1000円/t) × 953t ≒ 29067千円

#### 3) 無色ガラス瓶

(@630円/t - @500円/t) × 639t ≒ 83千円

#### 4) 茶色ガラス瓶

(@315円/t - @200円/t) × 762t ≒ 88千円

#### 1) 2) 3) 4) の合計 43428千円

(注) アルミ缶、スチール缶の売払い契約は、19年度は半年契約であるが、ここではこの価格が1年継続するものとして計算した。

19年度財政上の改善効果(18年度比) 20047千円 + 43428千円 = 63475千円

(注) 1) のA区域とは「中東及び南区域」、B区域とは「堺西及び北区域」